

R6 1/9 第2回検討委員会 検討条件の整理とコンセプト案、ゾーニング案の検討

コンセプト案

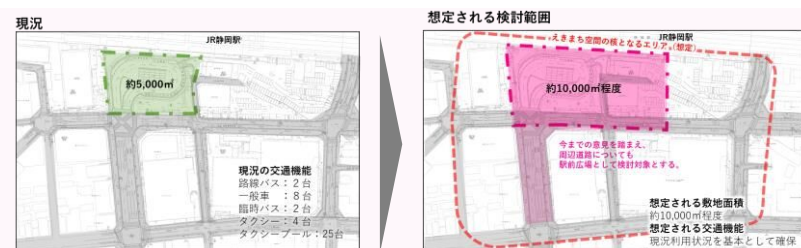
地域にひらかれ、誰もがマチあえる、“未来につながるまちのロビー”へ

課題のまとめ & 期待される整備の方向性

現状課題 1. 空間の不足と交通の混在 2. 歩行空間の快適性の欠如 3. まちとの分断

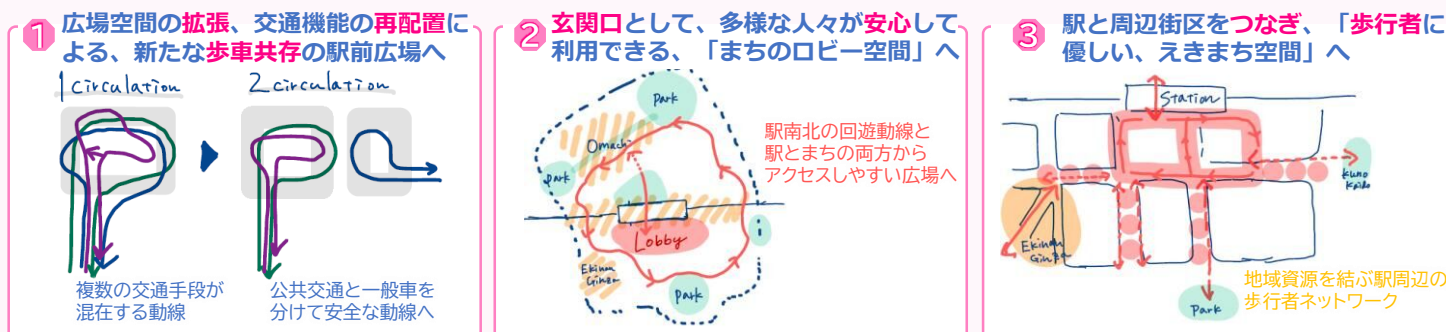
課題解決のキーワード
 ・広場空間の拡張 ・駅南地区(静岡市)の玄関口 ・駅と周辺街区をつなぐ空間 ・歩車共存
 ・交通機能の再配置 ・多様な人々が安心して利用できる空間 ・歩行者優先の移動導線

検討条件の整理

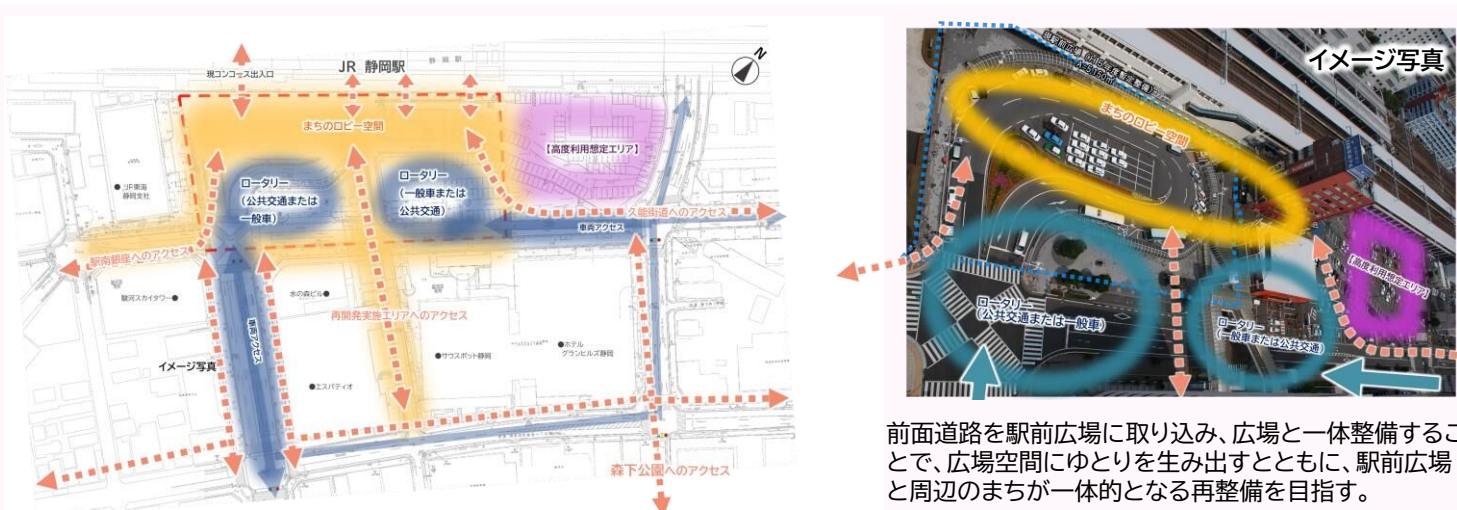


検討条件
 ①広場面積を拡張する形で、各機能の特性や空間サイズを考慮しながら、平面的に広場空間を確保し、広場機能を再配置する。
 ②駅とまちとのシームレスな接続や、ゆとりある広場空間の確保を目指し、周辺道路についても広場空間として検討対象とする。
 ③交通機能は現在の利用状況を基本としながら、将来の交通体系を考慮し検討する。

目指す方向性



ゾーニング案



検討の深度化

委員意見

- ・北口は駅前からすぐに地下に接続するのに対して、南口はシームレスにまちとつながるのがよい。
- ・駅から出てすぐロータリーではなく、広場であることを周知できるような名称があるとよい。「〇〇ストリート」等。
- ・駅中の構造も変わるので、可変的な広場づくりも大切だと思う。
- ・まちのにおいがするロータリーがいい。
- ・立体的な駅前広場は歩車分離できるメリットがある一方、平面的な駅前広場はイベント等様々な利用が期待できる。第一回検討委員の議論を踏まえると平面的の方が良いか。
- ・車いす乗降スペースが少ない、歩廊の柱にぶつかるなど、障害者の求める要素をコンセプトレベルで示してほしい。
- ・3つの方向性はまとまっており良いと思う。
- ・象徴的な名所となるような、プラモデルや竹細工のような静岡ならではのシンボリックな静岡らしさがありつつ、来た人にとってくつろげる空間となると良い。
- ・「まちのロビー空間」については共感できる。
- ・交通が混在しているため、分かれていると使いやすくてよいと思う。
- ・公共交通機関利用者にとっても利便性が上がると、公共交通機関の利用者が増えると思う。
- ・ゾーニングについて、駅前広場は広いと感じた。
- ・葵区でも駿河区でもみんなが駅前広場で何かやってみたいという人のための空間にしたい。
- ・可変性は重要なキーワードである。
- ・周辺の高度利用エリアでは一階レベルのランドデザインも必要。
- ・地域の取り組みも合わせて議論する緩やかな場が提案できるとよい。
- ・今後実験のフェーズが重要になってくる。
- ・ロングスパンのスケジュールがあると、整備までの工程を議論しやすい。
- ・ロータリーまでの距離をとれることが良いと思う。
- ・使い方の可変性、例えば一般車のロータリーを時間帯で締めきることによってイベントに使用可能では。
- ・東側に駅前広場が伸びるのであれば、高度利用エリアの使い方も変わってくる。その東側にも再開発の機運も生まれるのではないかと。
- ・新しい形状になった時の交通処理の結果についても書き込んでほしい。